

【実践報告】

明星大学タイムカプセル開封資料報告 — 開封資料 児玉三夫「明星大学 50 周年を祝して」—

長谷川 倫 子*

はじめに

明星大学のタイムカプセルは、1985年11月3日に、星友祭20周年を記念し、星友祭実行委員会を中心とする学友会の学生の手によって、大学会館前の中庭に設置された。その開封は、明星大学50周年・星友祭50周年にあたる2015年と定めてあったため、2015年9月26日に、第20回星友祭実行委員長を中心に同窓生が一堂に集い、タイムカプセルの開封式が開催された。

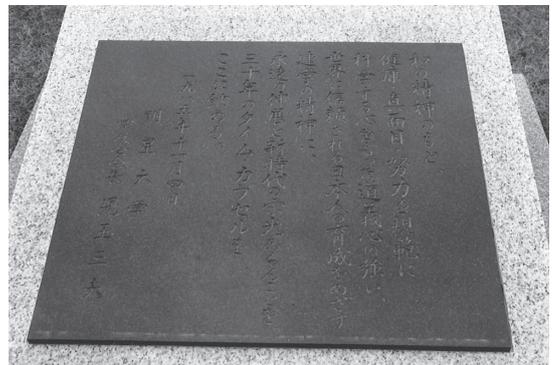
タイムカプセルの中身は、各クラブ・サークル団体から募集したメッセージや星友祭ポスター・パンフレット、8mmビデオフィルム・明星大学の開学（1964年）から1985年までの沿革を示す写真、明星大学シェイクスピア・コレクション目録などで、これらをガラス瓶（果実酒貯蔵瓶）5個とコーヒー瓶に入れ、石室に収納した。残念ながら、コーヒー瓶収納の資料とシェイクスピア・コレクション目録は、十分な保存処理がなされていなかったため、風化してしまったが、ガラス瓶に収めた5つは、大変保存状態が良く、30年の時代を越え、無事に開封された。

出土した資料の一部は、明星大学資料図書館（15号館）の明星教育センター明星資料展示室の企画「星友祭50年の歴史」展で2015年10月13日から2016年3月5日まで展示した。展示期間中は、星友祭（2015年10月29日から11月3日）を中心に、同窓生・在学生とその保護者・入学予定者などが多数来場し、好評を得た。

本稿では、数あるタイムカプセル資料から、第2代学長児玉三夫（1915-1996）が明星大学創立50周年に向けて残した「明星大学創立50周年へのメッセージ」を取りあげる。この資料では、児玉三夫学長の創立50周年に向けてのメッセージとと



タイムカプセルを埋める児玉三夫第2代学長（中央）



学生会館前の中庭にあるタイムカプセルの石碑



開封されたタイムカプセル

* 学芸員 明星教育センター

もに、明星大学の建学の精神や創立 20 周年を迎えた当時の様々な記念事業が記載されており、明星大学の沿革を知る上で、大変参考になる資料と考えられる。特に今回は、創立 20 周年を中心とする明星大学の歴史に関して、注記を加えて、資料の報告とする。

【資料】

明星大学創立 50 周年へのメッセージ

学長 児玉 三夫

紀元 2015 年の明星大学の皆さん、未来へ向かって 30 年、その気の遠くなるほどの時間をへだてて、みなさんにおくることばをしたためることを、まことに光栄に存じます。

まず、光栄の建学の精神のもと、教職員、学生が一丸となって教育と研究に精励していただけることを心からお喜び申し上げます。

本年は明星大学創立 50 周年^{*1}にあたり、立派で多彩な記念行事を挙行されたこと、衷心よりお祝い申し上げます。創立 50 周年の明星大学がどのようになっており、どのような記念行事が行われたかを知りたい気持ちでいっぱいですが、それは不可能なことです。いまはただ、皆さんが建学の精神を遵守し、その顕現伸張に努力され、明星大学の声価をいやがうえに高めていただけたであろうことを確信して、厚く感謝の意を表するよりほかありません。

ところで、現時点で考えて、これからの 30 年という歳月は、明星大学にどのような変化をもたらすかを想像しますと、胸おどるものがあります。おそらく、規模内容の拡充は申すに及ばず、学術文化の業績のうえで長足の進歩発展をとげられ、さらに 100 年、200 年へと光輝ある歴史を延ばすべく意気さかんな状態であろうと推測いたします。それは、1964 年、明星大学が多摩丘陵に呱呱の声をあげていらい、営々として堅持してまいりました建学の精神、すなわち万有生成発展の原理である「和」の精神のもと、「健康・真面目・努力」を規範として「科学する心をもった、道義心の強い、世界に信頼される日本人の育成」をめざして、全教職員・学生がヒューマン・タッチの教育に徹して精励してきたことから、容易に予測できることです。なぜならば、この建学の精神こそ古今東西にわたって不滅だと信じるからであります。

そこで、昨 1984 年、創立 20 周年を迎えていらいの明星大学の歩みと現状について概略を記し、21 世紀にそなえて大きく飛躍しようとしている明星大学の姿を浮き彫りにしてみたいと思います。

明星大学創立 20 周年記念行事は、1984 年 8 月 8 日の、占領教育史研究センターを中心とする記念シンポジウム「戦後教育をいかに評価するか - 占領期を中心に」からはじまりました。これは、H・パッシン^{*2}・コロンビア大学教授、有光次郎^{*3}・日本芸術院院長、木田宏^{*4} 国立教育研究所長ほかを迎えて行われ、大きな成果をあげました。

8 月 28 日から 9 月 2 日まで東京・三越本店において、東京リンカーンセンターの資料による「リンカーン一人とその時代展」^{*5}を開催、そのオープニングにおいて、マンスフィールド駐日米国大使夫婦から東京リンカーンセンターの活動を高く評価されるとともに、会期中、小学生からお年寄りまで、幅広く 2 万人の観衆を集め、大成功をおさめました。

10 月 14 日、岩手県田老キャンパス^{*6}において「田老宇宙線観測所」ならびに、「田老鉱山史料館」の開所式を挙行、22 日には、学内において記念パネルディスカッションを開催し、大学図書館の拡充に尽力された三氏（ジョン・F・フレミング^{*7}、ラルフ・G・ニューマン^{*8}、新田満夫^{*9}の各氏）に名誉人文博士の学位を贈りました。

翌 23 日からは、いよいよ最大のイベントとして、英国から前首相ジェイムス・キャラハン^{*10} 氏夫妻を招聘し、京王プラザホテルにおいて、キャラハン氏による特別記念講演「変貌する世界情勢と相互依存」を、24 日にはキャラハン氏夫妻を大学に迎えて図書館を案内したあと、「英国議会民主主義とその変遷」と題する特別記念講演なら

びに記念植樹をお願いしました。

そして、10月25日、東京・新高輪プリンスホテル飛天の間において、キャラハン前英国首相夫妻、マンズフィールド^{*11}駐日米国大使夫妻、ジェファード^{*12}駐日英国大使夫妻ほか来賓、一般参列者1,500名を迎えて「創立20周年記念式典」が、ひきつづき2,500名参列による「記念祝賀会」が、それぞれ厳粛かつ盛大に挙行されました。この式典には、サッチャー英国首相、キノック労働党首、ならびに中曽根首相からのメッセージも披露され、キャラハン前英国首相、マンズフィールド米国大使、児玉九十明星学苑長の三氏にたいし、名誉人文学博士の学位を贈呈いたしました。

当日は同ホテルにおいて、明星大学図書館所蔵の「稀観書展^{*13}」も同時開催され、各方面から好評を博しました。

11月7日、新時代に向けての学生に、海洋の大自然に親しませることにより、分析力、判断力、決断力、リーダーシップなどを涵養するために取得した大型木造ヨット「エコ号^{*14}」の披露パーティーがホテルオークラにおいて行われ、一連の多彩な記念行事は、成功裡に滞りなく終了いたしました。

越えて、1985年早々より、87年新設予定の「いわき明星大学^{*15}」建設敷地の地鎮祭につづき、新学部学科増設予定の青梅キャンパスの鎮魂祭がとり行われ、創立21年目の幸先きよいスタートを切りました。いわき明星大学については、すでに学部学科の設定、教員組織の人選など、いっさいの準備が完了して、認可を待つばかりとなっており、日野キャンパスの学生定員増の申請と併せて、規模と内容の拡充に全力をあげております。

このほか、理工学部「高分解能分析電子顕微鏡センター^{*16}」が完成、その開所披露が7月4日に行われましたが、ハイテクノロジー時代の先端をゆく施設として、今後の教育と研究に及ぼす効果が期待されます。

いまひとつ特筆すべきことは、ミクロネシア連邦ヤップ州よりの日本親善訪問のための「ガアヤンカヌー」に伴走する役目をひきうけたヨット「明星大学エコ号」が、カヌーの出航延期で伴走業務はできませんでしたが、5月末から60日間かけて、太平洋縦断往復8000キロをみごと走破した快挙です。このエコ号の航海により、新生ミクロネシア連邦の人びととの国際交流はもとより、南海の島々に眠る第二次世界大戦の戦没者慰霊にめざましい活躍をしたことは、国際性を重視する明星大学の面目を如実にあらわしたものといえましょう。さらに「エコ号」の姉妹艇として取得したモーターボート「MEISEI号」の進水式が、9月19日、湘南海岸の佐島マリーナにおいて挙行され、海洋による教育活動が一段と強化されることとなりました。

最後に、10月22日、2号館東側の予定地において、20号館建設工事のための地鎮祭が挙行されたことをつけ加えておきます。これが来春完成の暁には、建坪643平方米、地下2階、地上6階、延べ床面積5,144平方米に、研究室、演習室、講義室が配置される予定で、本学の教育環境の伸展に大きく寄与するものと期待しております。

このように、いまや飛躍期にある明星大学は、学術文化の向上は申すに及ばず、機構と施設の拡充にたいしても、全学をあげて努力を傾注しています。これらはすべて、21世紀の皆さんへの心をこめた贈り物であるという認識に立つものでありますから、どうか30年前の明星大学をよく理解せられ、明日への糧としていただくよう願いたします。

私たちはいま、大きな希望に燃えています。ゆるぎない平和と高い文化に輝く新時代を築くのだという意気込みで、着実な歩みをつづけております。この高揚する精神をそのままタイムカプセルに納めて、皆さんとの交流ができますことを感謝いたします。

創立50周年というすばらしい歴史の先端に立つ明星大学の皆さんに、あらためて祝福をおくりますとともに、21世紀の明星大学がますます隆昌で永遠であることを祈念いたします。

1985年11月4日
Mitsuo Kodama

資料注記

- *1 明星大学創立 50 周年…2014 年に明星大学は、創立 50 周年を迎えた。記念事業として、15 号館（資料図書館）改修や 2 号館・4 号館の跡地に 32 号館・33 号館を建設するなど様々な記念事業が展開された。10 月 26 日（日）には多くの来賓や学内外の関係者を招いての記念式典・祝賀会を行い、創立 50 周年を盛大に挙行了。
- *2 H・パッシン…1917 年 -2003 年。知日家として知られる文化人類学者。アメリカシカゴ出身。1936 年イリノイ大学を卒業する。1946 年に GHQ 職員として来日し、民間情報教育局に配属され、世論調査の手法を日本で初めて紹介した。1951 年の帰国後は複数の大学で教え、1962 年にコロンビア大教授、1987 年には同大名誉教授となる。1967 年に「下田会議」の通称で知られる日米関係民間会議を設立した。1968 年に日米議員交流プログラム設立に尽力。米国フォード財団の顧問として、多数の日本人学者の渡米を手助けした。1984 年には勲二等瑞宝章を授与された。
- *3 有光次郎…1903 年—1995 年。元文部事務次官。教育者。高知県出身。東京帝国大学法学部を卒業後、1927 年に文部省に入省。教育基本法の制定、小学校 6 年、中学校 3 年の六・三制の実施などの戦後の教育改革に携わる。1948 年に文部省を退官後は、1962 年に武蔵野美術大学初代学長や東京家政学院大学学長、学校法人東京女学館館長、NHK 学園高等学校校長などを務める。1979 年から 1990 年まで日本芸術院院長も務めた。1974 年に勲一等瑞宝章を受章。1989 年に名誉都民を受賞した。
- *4 木田宏…1922 年—2005 年。元文部事務次官。教育者。広島県出身。京都帝国大学法学部卒業後、文部省入省。社会教育局長、大学学術局長、学術国際局長を経て、1976 年に文部事務次官に就任し、1978 年に退官。その後は、国立教育研究所長、日本学術振興会理事長、獨協学園理事長、新国立劇場運営財団理事長を歴任した。
- *5 リンカーン人とその時代展…1984 年月 28 日から 9 月 2 日に、大学創立 20 周年を記念し、東京日本橋・三越本店で開催した展覧会。明星大学所蔵のリンカーン関連の資料の中でも特に貴重な資料を公開した展覧会で、アメリカ大使館の後援を得て開催した。
- *6 田老キャンパス…岩手県下閉伊郡にあった明星大学のキャンパス。1974（昭和 49）年にラサ工業（株）より閉山した田老鉱山を譲り受けた。取得後は総合研修施設として設備し、理工学部の測量実習・橋梁実験・土圧研究・風力発電などの各種の実験・実習や体育活動、合宿などに利用した。1984（昭和 59）年には「宇宙線観測所」・「鉱山資料館」を開設。宇宙線観測所は、工場跡の巨大な水槽や地下施設を活用した。鉱山資料館は、鉱山の記録や資料を保存・展示しており、当時は地元からも文化的遺産の保存と観光資源という意味で期待を得ていた。2013 年 3 月には、「宇宙線観測所」については通信技術の発達に伴い、データを明星大学で入手できるように設定したこと、「鉱山資料館」が他所に移転したことから、閉鎖された。
- *7 ジョン・F・フレミング…アメリカニューヨークの古書店、ジョン・F・フレミング（John F. Fleming）社長。
- *8 ラルフ・G・ニューマン…1911 年 - 1998 年。アメリカシカゴ出身。シカゴ公立図書館委員会の理事長。第 16 代アメリカ大統領エイブラハム・リンカーンや南北戦争研究で知られる。シカゴにリンカーンの専門書を扱うアブラハム・リンカーン・ブックを創設する。1964-65 年のニューヨーク万国博覧会ではイリノイ・パビリオンの議長を務め、1968 年には、イリノイ 150 年祭委員会の議長として活躍する。
- *9 新田満夫…1933 年 -2015 年。古書店である株式会社雄松堂書店（現、丸善雄松堂株式会社）の前会長兼社長。欧米の希少本、古書の販売とともに、ジョン・オーデュボンの「アメリカの鳥」など貴重な書籍の復刻に取り組んだ。
- *10 ジェームス・キャラハン…レナード・ジェームズ・キャラハン。1912 年 - 2005 年。イギリスの政治家で、所属政党は労働党。イギリス ポーツマス出身。1976 年から 1979 年まで、首相を務めた。1984 年 10 月 21 日に、明星大学創立 20 周年記念式典列席と特別記念講演のため、来日する。10 月 23 日に「変貌する世界情勢と相

互依存」、24日には「英国議会民主主義とその変遷」と題する記念講演を行った。キャラハン氏の来学は、本学図書館がイギリス労働党および労働組合の機関誌『デイリー・ヘラルド』の創刊（1911年）から終刊（1964年）までのバックナンバー全揃いを所蔵していることに好意を寄せたことを機縁とする。24日には、明星大学よの友好を記念して、記念植樹が行われ、キャラハン氏が「月桂樹」、同夫人が「泰山木」を植えた。

- *11 マンスフィールド…マイケル・ジョーゼフ・マンスフィールド。1903年-2001年。アメリカの政治家で、所属政党は民主党であった。ニューヨーク出身。モンタナ大学卒業。1953年から1977年の任期満了までの24年間にわたって上院議員を務める。知日派として知られ、1977年から1989年までの長期にわたって駐日大使を務めた。1984年にアメリカ大使館後援で開催された「リンカーン人とその時代展」は、かねてより丸太小屋から身を起し大統領となったリンカーンを敬服していたマンスフィールド氏の仲立ちがあり、実現した。1986年2月14日には本学との友好を記念して、マンスフィールド夫妻により、アメリカを代表する花「ハナミズキ」が植樹された。
- *12 ジェファード…チャールズ・シドニー・ライクロフト・ジファール。(1926年-)イギリスの外交官。オックスフォード大学ウォドム・カレッジを卒業。1961年から外交官として活躍し、1980年スイスイギリス大使、1984年から1986年に駐日イギリス大使を務めた。
- *13 稀覯書展…1984年10月25日に明星大学創立20周年を記念して、東京新高輪プリンスホテルで開催された展覧会。1984年当時の390,000冊を超える所蔵図書の中から、明星大学のシェイクスピア・コレクションをはじめとした約250点の貴重書を展示した。
- *14 エコー号…明星大学創立20周年記念の一環として、作曲家いずみたく所有の「フォンテーヌⅡ世号」を1984年に譲り受けた。外洋をエコー（こだま）のように自在に、という願いを込めて「エコー号」と改称された。これは、第二代学長 児玉三夫が1983年に、姉妹校締結のために訪れたミシシッピ州立大学がヨットによる教育効果が高く評価されていることに着目。学生を広大な自然に親しませ、展望力・分析力・決断力や集団活動を通じてのリーダーシップや主体性、風波に耐える体力などの養成を目的とし、体育科に導入したいと考えてから実現した。1985年5月31日には明星大学体育科助教授の上野直紀艇長として、ミクロネシア連邦ヤップ州からの強い要請を受け、世界最大のアウトリガー型「ガヤンカヌー」による日本親善航海の伴走を引き受けた。6月5日小笠原諸島父島、6月14日グアム島と航行を続け、6月24日夕刻、目的地ヤップ島コロニア港に到着。トシオ・ナカヤマ・ミクロネシア連邦大統領と、マンゲフェル・ヤップ州知事に宛てた児玉学長の親書が届けられるとともに、クルー全員が戦没者の慰霊碑に参拝した。エコー号は、ミクロネシア連邦政府の要請で親善航海は延期されたことにより、単独で帰国することになり、7月5日正午、エコー号はヤップ島を離れ、7月30日夜、母港佐島マリーナへ帰着した。
- *15 いわき明星大学…1987年に福島県いわき市に開学。1975年に福島県内で国公立それぞれ数校の大学はあるものの、理工系学部、人文系学部を持つ大学が存在しないため、いわき市より明星大学へ誘致の打診があったことから始まる。いわき市は、翌年の1976年には、いわきニュータウン計画の具体化に伴ない、ニュータウン計画区域内に大学建設予定地を確保した。1977年5月から1983年6月まで8回にわたり開学に関する検討会が開催され、討議を重ねた。1984年4月、討議内容を参考に、さらに2回、いわき市長と本学学長が話し合い、「大学設置に関する基本事項」について合意し、文書交換を行った。1985年3月いわき市は3月の定例議会において、いわき明星大学建設にかかわる初年度寄付金15億円を1985年度一般会計総務費一般管理費に計上し、これが承認された。同年6月には、田畑金光いわき市長、児玉三夫明星学苑理事長によって、大学用地無償譲与契約書に署名がなされ、契約が締結された。1985年末には第1次審査が終了し、次の段階へ進み、翌1986年12月に大学設置審議会および私立大学審議会の最終答申を得て、同年12月23日、文部省より正式に「い

わき明星大学」の設置が認可された。

- *16 高分解能分析電子顕微鏡センター…明星大学附属教育研究機関。現、連携研究センター。1985（昭和60）年3月に透過型と走基型の電子顕微鏡一式から始まり、当時の学長である児玉三夫の「理工系の教員・学生が共同で利用できる研究センターをつくりたいのだが、電子顕微鏡を検討してはどうか」という提案から始まった。設置された電子顕微鏡の性能は当時としては非常に高く、日刊工業新聞に報じられたほどであった。その後、電子顕微鏡以外の研究設備の充実とそれに伴う研究成果を生み出していることから、1997（平成9）年4月には「物性研究センター」と名称を変更し、2009（平成21）年には「産官学連携推進室」と統合し、「連携研究センター」として、現在に至る。

まとめ

本稿では、タイムカプセル開封式の報告と共に、収蔵資料のひとつである児玉三夫「明星大学創立50周年へのメッセージ」を紹介するとともに、そこでの記述をもとに創立20周年を中心とした明星大学の沿革について、注記を加えた。この資料からは、タイムカプセルを設置した当時の明星大学に関わった人物やいわき明星大学、明星大学での附属研究機関の開設やキャンパス開発など明星大学の発展を知ることができる。すでに明星大学は、創立50周年を迎えたが、この資料に込められた児玉三夫学長の大学への思いを更に60年、100年と継承しなければならないと考える。

参考資料・文献

明星大学創立20周年記念『所蔵稀観書展 展示目録』（明星大学児玉記念図書館、1984年10月）

児玉九十伝編纂委員会編『児玉九十自伝』（1990年12月15日）

創立40周年編纂委員会編『明星大学四十周年史』（明星大学出版部、2004年10月23日）

明星大学50年史編纂委員会編『五十年の歴史—創立五十周年記念誌 第1分冊—』（明星大学、2014年10月26日）

明星大学20年史編纂委員会編『明星大学20年史』（明星大学、1984年10月10日）